

平成十八年度同窓会、吾峰会、津若松大会の開催にあたり、御祝意を述べるとともに、皆様の本学に対する物心両面にわたるご支援に対して、心から御礼を申し上げます。福島大学は、平成十六年に国立大学法人となり、十月に全学再編を行い、教育学部も人間発達文化学類になるとともに、念願の理工学群共生システム理工学類を創設しました。本学は、長い間の念願である、総合大学化を実現することができました。大学の法人化は、六年間の中間目標・中期計画を持ち、その評価が、その後の運営費交付金に大きな影響を持ちます。現在、第一期の三年目に入っており、来年度、四年が

終了した時点で「暫定評価」が行われることになっていきます。今、第二期の中期目標・中期計画を立てることが求められています。毎年度の計画の報告や評価もあつたので、何か独楽鼠のように、追い立てられている状況があります。そこで、現

### 福島大学を文化の拠点に

国立大学法人福島大学長

今野 順 夫

在、学内において、一〇年ほどのスパンで本学の長期計画構想・プランを立てるべく、議論を行っているところだ。

現在提案して議論をしていることは、第一に本学が教育重視の人材育成大学として教育の質の向上をどう

図るかということ。文理融合の教育、キャリア教育などの教育の改善にどうということ。第二に、理工系の大学院(MC・DC)の創設とともに、文系三研究科(MCC)の充実と文系総合のDCの創設の検討です。このことによって、

国際的にも通用する研究拠点を形成するという問題です。第三に地域連携を更に進める問題です。施設を開設計、地域の諸団体・住民、卒業生との連携を強める方法です。第四に、財政の安定です。国からの交付金・授業料収入だけでなく、寄

付金などの多様な財源を確保するとともに、経費の節減、有効な活用です。福島大学の存在意義は、地域社会における知の拠点、文化の拠点として、地域社会に不拔の地位を占めていかなければなりません。そのために、より一層、地域貢献・地域連携を強めていきたいと思えます。特に、卒業生との連携を強め、社会に出てからも、いつでも大学において研究できる仕組み、日常的な連携を可能にしていきたいと考えています。今後とも、吾峰会の皆様のご支援・ご協力をお願いするとともに、この大会のご成功を期待し、祝辞とさせていただきます。ありがとうございます。